京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵税一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

雜報

東拓本年度の移民

東洋拓殖會社の移住民取扱に就ては一般原則として來年より毎年二月に募集廣告をなし六月迄に申込を爲さしめ七月中に會社にて之が選定を行ひ八月中に承認をなし夫れより朝鮮の事情を知ることを欲するものは早く渡來すべく遲くも二月十五日迄に來りて肥料の用意小屋掛け等の準備を爲さしむるも本年は右の原則を應用して應募者の還つて迷惑を蒙むることあらんを恐れて前書の規則を準用せず特に移住の準備等を爲せる者又は朝鮮に久しく居住せる者の親類等にして移住を希望するものは十一月中に申込みを爲さしめ會社は直ちに承認を與へ十二月中に必ず夫々處置すべく斯して渡來せる者に對しては慶尙南道、全羅南道、同北道、忠淸南道、京畿道、黃海道に於ける會社所有の土地にして都合の付き得る範圍にて臨機相當の取扱をなすとの方針なれば從つて今回の移住者は其住宅を用意せざる者の如きは到底移住の希望を遂行する能はざる可しと云ふ

●地方民種痘の狀態

朝鮮は由來天然痘多きを以て我統監府設立以來專ら其防遏に力め一般に種痘を勵行し居りたるが爲めに其種痘醫をして朝鮮人間に種痘方法を敎へたる結果昨今に至りては種痘認許員實に七千五十一人の多きに達したり然れども朝鮮人の習慣として婦人は房內に引籠り男子に接するを以て最も恥辱とするより婦人に對する接種の勵行甚だ困難なりしが昨年より婦人種痘認許員なるものゝ養成に力め今日に至りては全道を通じて三十一名を出し婦人少女に對しては此の婦人認許員をして種痘せしめ居りしより年々種痘者の數を增加すると同時に該疫の流行漸時消滅し來るは最も喜ぶべき現象なりとす而して其施行期は春秋二期を主とすれども年中絕えず施行し昨今の如きは最も盛に勵行し居れり今一昨年以來の種痘者員數を調査するに隆熙二年に於ける種痘者は五十四萬四千六百三十名にして昨三年に入りては六十八萬六千五百三十五名の多きに上り僅かに一箇年にして十四萬一千九百八十五名を增すに至りたるが更に本隆熙四年に入りて最も多く先九月三十日迄の總數實に六十九萬一千八百二十五名にして昨年一箇年の總數より既に一萬人を超んとし居れり故に本年末には全道に種痘するもの將に百萬に達すべしと

●鴨綠江の流筏狀況

營林廠伐木事業中鴨綠江の流筏區域は之れを別つて三とし一は惠山鎭より慈城郡中江鎭間二は同地より江界郡高山鎭間三は同地より義州府成下洞及び新義州間として從業せしめつゝあり高山鎭新義州間は筏夫日人四十九名朝鮮人百餘名にして本年は約六回に流下し最近北下當新義州の兩地に到着したるものは約十三萬五千尺〆餘にして殆んど流下を終了したる程なり而して內地より渡來したる筏夫は客月末に大部分歸國したり彼等の多くは重に岐阜縣人にして每年四月頃に渡來し九月末に歸國するを常とし其の所得金は一人に百五十圓乃至四百圓位の成績にして營林廠も事業開始後日本筏夫の成績良好なるを認め內地即ち岐阜德島の兩縣より移住を奬勵したる結果中江鎭に三十餘戶高山鎭に七戶の移住者ありて何れも農業其他に從事し相當の生計を營み居れり中江鎭の如きは營林廠の盡力により學校の設備を見るに至りたり而して昨年は淸國人木把等との間に紛擾を生じ危險勘からざりしが昨今斯かる憂へなく一般に其の堵に安じ居れりと

●東拓社と元韓政府

東拓會社に對する元韓政府の出資地は株式四分の一に該當する額として

田 六百六十町四反四畝二步
畑 千八百三十町
計 二千四百三十六町四反四畝二步

なるが更に其殘餘拂込四分の三に對する分も既に引續を了へ其積量は

田 一千七百八十二町二畝五步
畑 五千五百八町四反五畝十二步
計 七千二百九十町四反七畝十七步

にして這は賃貸借關係を以て同社の管理に移り居れりと云ふ

●淨土宗の傳道狀況

紀念傳導として同宗より特派されたる權僧正中島觀琇師一行は釜山馬山方面を終りて大邱に出で目下開城に於て傳導中なるが大邱の際の如き前觀察使朴重陽氏卒先斡旋したるより各郡守兩班豪商等四百餘名の來聽者ありて深厚なる感化を與へ同地守備隊にも講話をなし開城に於ても日本人小學校に於て日々傳導をなしたるに來聽者堂に溢ち朝鮮人の歸依する者頗る多數にて良果を奏し居れりと

文苑

▲演劇事實考（二）　閑生

○阿七吉三郎の事は倭文の緒環（享和二年の著なり）と云書に見へたり其槪略は加賀侯の足輕山瀨三郎兵衞と云者浪人して名を太郎兵衞と改め齊物店を圓山の本妙寺門前に開きしが菩提所なる駒込吉祥寺の七面大明神に祈りて一女を生み之を阿七と名つく彼火災に罹りて其弟の住持たりし小石川の圓乘寺に暫し寓し居けるが此寺に寄食せる幕府の士山田千太夫の子佐平といへる少年と人知れず深く語らいしに幾程もなく其家の作事成りて歸りければ佐平を戀ひて病に臥しゝを其頃此家に行き通ふ吉三郎と云者あり此は吉祥寺の門番吉兵衞と云者の子にて日頃行狀惡しき故父より勘當受けし者なれども太兵衞は菩提所なる寺の門番の子なればとて其まゝに交り居しが此吉三郎竊に阿七の事を知り佐平に遇はせんと欺きて金を賺し取り後には敎へて火を放たせ其紛れに乘じて物取らんとせしを盜賊奉行中山勘解由其場にて之を見咎め吉三郎を捕へて其實を糺し阿七と同罪に處せられしなり阿七は幼くして書を善くし十一歲の時に昔在靈鷲山法華最第一といふ一遍字を七面大明神に奉りしが其後に天和二年と題せしと云へば其時代も亦明なり云云と亦同書に云り○那珂氏又云兩蝶々廓日記は誰が作なるをも詳にせずと誰も吾妻うけ出せ山崎與次兵衞といふ俚歌を敷衍せしなり與次兵衞は大坂の富商淀屋辰五郎新町の遊女吾妻を二千金にて購ひ產を破りて山崎に移り住みし後の名なりと然るに花浪靑樓志（寶曆九巳年刊本）と云へる書の藝文編吾妻自讃贊の條に佐渡島町富士屋某抱の大夫にて當地身請の權輿なり往昔三百兩の價を以て昔買とす云云當國川邊郡山本の里坂上與次右衛門遣と云大庄屋身請せらる（與次右衛門遺址當時西本願寺門下の道場西宗寺となる與次右衛門舊宅の中門今にありと）自讃の一軸は表着を着て座し居る體にて其贊に云

身はなには心は都名はあづま登りつめたる山本の里

此一軸は與次右衛門遺址西宗寺に藏せりと吾妻は寬文の比の大夫なり云云とあると似て只新町と佐渡島と町異なり身價の二千兩と三百兩と與次兵衞と與次右衛門とその淀辰が山崎に移りし後の名とするを山本の大庄屋とすると異なれども靑樓志は浪華にて成りし書なれば或は信據するに足るべし知らず那珂氏の說は何に據りしや（未完）

●新刊紹介

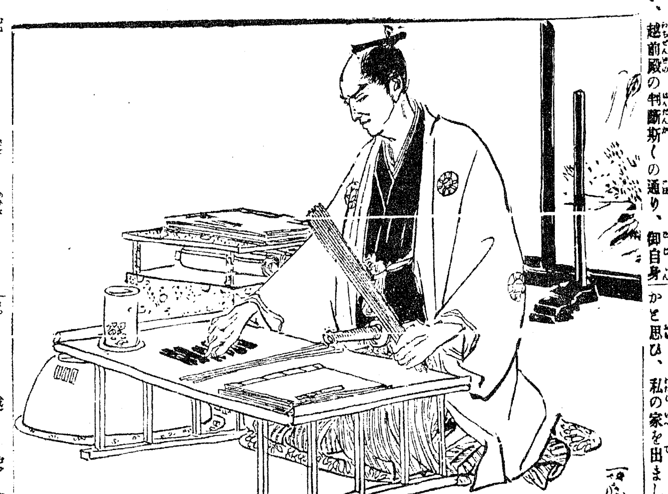
▲東洋時報　百四十四號九月二日發行（東京麴町區內山下町一の一、東洋協會 一冊五十錢）
▲新報知（一錢雜誌）　一號十月一日發行（東京府大崎停車場前新報知 一錢）
▲少年　秋期特別號九月二十三日發行（東京々橋區南鍋町二の一二、時事新報社 一冊二十二錢）

講談

大岡政談 越後傳吉　第九十二回　旭堂南陵講

越前殿は易學に取ては名題の人、殊に觀相に長けて居るお方、享保十二年十月二日の傳吉の出來事、近藤卜齋の易の話しもあつたが、越前殿は越前殿だけにこれから筮竹を採つて御自分で卜はれた、丁度この時傳吉の年の中宮が六白、月の中宮が五黄、日の中宮が四緑、然らば傳吉の本命は二黒で年に取ては休門に巡り月にたいては死門に巡り、これがために運勢が頗る惡い、その上日において震局の傷門に巡つてゐるから不意の驚きがある、殊にまた女房のお仙の本命は六白年は中宮、月にては定局に還り日盤にては驚門に巡りゐるため、傳吉と同じ時に驚き事がある、これも惡い運命に迫つてる殊に今日傳吉の人相を見ると天停に暗色を帶び、土星と申して鼻の上に赤色が現はれゐるがこれ災難に陷つたる徵、且眼中に朦氣のないは犯罪のない證據である殊に殺されたといふ庄藏の身をば緻いて越前殿言はれた、彼れ庄藏は卅二歲にいたして一白年にては景門、月にては休門、日にては死門に巡り、お梅は廿六歲是も四緑なるゆゑ、年にては傷門、月にては杜門、日にては中宮、夫婦とも年盤にては安全の局に巡りゐる、安全の局に巡りゐれば殺害の難に遭ふやうなことは決してない、併しながら月盤日盤にては夫婦の身の上に變動のあるは、必らずこれは住所居住ひが變るに相違ない、而も庄藏の本命一白が景門に座するから、これ必らず南の方に向つて動いたる徵である、今越後より南の方といへば江戶表ならん、且つ日輪二ツ重なつて上がる、側字をすれば日といふ字を二ツ重ねて昌といふ、てりやア庄藏夫婦が存命をいたしてゐる、江戶表に潛んで居るものに相違ない、越前殿の判斷斯くの通り、御自身の胸にチャンとお覺りに相成つたから直ぐに死んだとなつて居る庄藏梅は江戶表に居るに相違ないといふので、內密下役の者に申附けて置いて嚴しい御吟味になつてゐる、イヤハヤ恐ろしいお奉行でございます三日を隔いて又もや係り合ひ一同の者を御呼込みといふことになる、庄左衛門、早は二度の調べ共に先づ無事に下げられたナーニそんなに分るものぢやアない、名奉行だつて何といふても爪印口書の濟んだものだからさ三度目の白洲は左程に驚いて居ない、甚右衛門、三右衛門、中村屋與兵衛、仙、傳吉等殘らず白洲へ並びました、越前守殿例に依つて御着席

越「庄左衛門　庄「ハイ　越「其方悴庄藏梅兩名は傳吉に殺害されたといふこと首のない屍骸といふことが調査書に出て居る、首なき屍骸の兩名を何うして我子といふことが分つた　庄「左樣にございます、當人が着用をいたして居りました衣類より分りました　越「ハ、アア、成程、庄藏、梅の兩名は何用あつて泉碩を通行をしたのぢや　庄「エ、宮戶村の方へ聊か用がございまして、尤も知己のところへ客に參りましたのでございます　越「其方は何うして屍體を發見出した　庄「ハイ、誠に歸宅が遲うございますので、何となしに親子の情愛、胸騒ぎがいたしまして、ひよつと途中で萬一のことがありもしやせんかと思ひ、私の家を出まして迎ひ旁々參りました　越「その迎ひ旁々參つたのは何時ぢやな　庄「左樣、曉方寅刻時ぐらいでございます　越「傳吉が殺したといふことは如何うして分つた　庄「ハイ傳吉の家の裏口を通りますと、裏口に血の足跡がございます、ハテ變だなと思ひながら泉碩へ參りますと庄藏お梅の屍體、證據はなけれども當人に違ございません、ハッと驚きましてジッと考へて居る、日頃傳吉めが夫婦仲睦うして居るのをば恨んでゐるとのこと事によつたら傳吉の仕業ではないか、それについて思ひ當るのは彼の血の足跡でおるわいと思ひましたから、直ぐに傳吉のお裏口へ取つて返しましてよくへ覗いて見ますと庭の飛石に血の足跡がありくとございます、もうこりやア傳吉に違ひないと思ひましたから高田の郡奉行所へ駈けまして左訴へをいたしました　越「ム、伴右衛門、郡奉行黑崎伴右衛門　伴「ハ、ッ……



東京電報

▲行政裁判所紛議 行政裁判所長官山脇玄氏は評定官松浦良春、楢山資之、由布武三郎三氏の退職を決議し桂首相に提出せしに首相は內閣の責任問題となるに付山脇氏も共に退職せしめ柴田翰長を其後任に据へ內閣の爪牙とする意向也（五日）

▲陸軍大學の移轉 陸軍は外山學校を千葉縣に移し其の後に陸軍大學校を移轉する由なり（同上）

▲日露間の連絡切符 日露鐵道連絡は兩國協定を了り明年四月より實施の豫定なるが今回露都滿洲里間の通貨改正の結果同連絡切符を鐵道院に送り來り同院は右に基き更に協定をなし明年一月より發賣の運びに至るべく從來露都滿洲里間の通貨に付ては取調中にて決定迄は兩者共打切る計算を爲し居れり（同上）

▲僧侶の併合祝賀 法本山海印寺主管李晦光氏は朝鮮十三道寺院僧侶を代表し本日上京直ちに併合を祝する賀表を奉呈したり（同上）

▲載洵の旅程日割 廿四日橫濱御着港の載洵殿下には東京滯在中は國賓として又退京後は海軍省の賓客として待遇せらるゝ由にて其旅程割は廿四日午後入京芝離宮廿五六七八の四日間御滯在の筈廿九日午前新橋發退京大坂着大坂ホテルに御一泊三十日午後吳着御一泊三十一日兵學校、鎭守府視察十一月一日吳發午前宮島に立寄り佐世保着二日長崎より御歸國の豫定なり（六日）

▲無線電信規則改正 遞信省令を以て外國無線電信規則に改正を加へ本月十一日より施行す（同上）

▲拓殖事業の調査 拓殖局書記官江木翼氏は事業調査の爲め來る十日頃出發渡鮮の筈なり（同上）

▲參謀旅行演習決定 陸軍大學校第三年級竹田大尉宮殿下外五十名の參謀旅行演習は來る十九日より十一月八日迄三週間名古屋以西に於て擧行の事に決定し參加學生は十七八日頃新橋發演習地に向ふ筈（同）

▲武官の賢所參拜 練習艦隊乘組の田中海軍中佐以下百〇六名は昨五日參內拜謁并に賢所參拜仰付らる（同上）

▲鑛業法一部改正 農商務省にては鑛業不振の現狀に鑒み事業奬勵の爲め鑛業法の一部改正の必要を認め目下夫々調査中なり（同上）

倫敦電報

▲葡萄牙の大革命 葡萄牙リスボンに大革命起り軍艦は皇居を砲擊し國王は捕虜となれり市街到る處慘憺たる光景を呈せり（六日）

▲日英關稅問題行悩 交涉を重ねつゝありし日英間の關稅問題は昨今行悩みの姿にて之が爲め加藤大使は遠からず歸朝すべし（同上）

雜報

寺內總督の巡視

寺內總督は副官陪乘輕裝にて六日午後二時出邸慶熙宮及度支部を巡視せらる

總督府の授爵式（愈々七日午前十一時）

朝鮮貴族授爵の御沙汰書奉持の蜂須賀式部官宗秩寮主事小原男は去五日夜入京せしに付き右授爵式は愈七日午前十一時總督官邸に於て執行の事となれり

地方長官會議終了

六日も引續き總督府に於て開催し豫定の通り午前九時より正午迄總務部司法部所管事務を打合せ寺內總督も臨席されしが午後一時より農商工部鐵道局通信局土地調査局所管事務打合せをなし是にて全く結了し午後四時散會せり

虎疫豫防心得揭示

時節柄の事とて其筋に於ては虎列剌病豫防心得と題する一枚の印刷物（日本文と諺文傍訓付）を五日民家一般に配附し、又風呂屋、床屋、劇場、寄席、料理店其他出入の頻繁なる場處へ揭示せり即ち左の如し

一、飲料水は勿論食器洗滌水にも煮沸水を用ひ水の飲用並使用を嚴禁する事

二、每に暴飲暴食を愼み食用品は煮炙したるものを選び且つ果物は之れを避くる事

三、身體を常に淸潔に保持し手指の爪を叮嚀に截り垢の付かざる樣注意する事

四、腹を冷し下痢を起さぬ樣常に腹卷を用ゆる事

五、胃腸の弱きものは本病に罹り易きが故に胃腸の强壯を圖る事

六、蠅は病毒傳播の媒介をなすものなれば一層驅除法を勵行し飲食物には勿論其他直に口に觸るべき什器には覆蓋を設くる事

七、便所には常に石灰又は木灰を撒布し消毒を行ふ事

九、嘔吐又は下痢する時は速かに醫師の診斷を受くる事

十、自家又は近隣にても急病にて死亡せしものある時は速かに最寄駐在所等に届出る事

抑もコレラはコレラ菌と名くる眼に見へざる病毒が口より入りて腸を犯すに依りて起る劇烈なる傳染病にして其の病毒は病人の大小便及吐物中にありて多くは生水に依り媒介するものなりとす之れが爲め萬一病人發生したる時は其吐瀉物及之れに汚れたるものは武力鑵の如き容器に入れ直に燒却又は消毒の出來る樣に爲し置き決して所々に撒亂せしむべからず若し之れを輕視し或は隱蔽して暫時たりとも油斷看過する事あらんか之れを小にしては一身を失ひ之れを大にしては一家を亡ぼすに至る各自自衛心を以て此の意を體し且以上の各項を堅く守り切に豫防に注意するを肝要とす

觀光團歡迎彙報

九日午前六時六分を以て入京すべき鐵道院中部管理局の主催に關る新領度觀光團を歡迎すべく民團及び日本人商業會議所に於て夫れ〲準備に鞅掌し居ること既報の如くなるが當日は恰かも景福宮に於ける府民大懇親會を兼ねると共に其歡迎を爲す筈なれば其盛況思ひやらるに餘あり今其決定したる歡迎準備に就いて聞くに左の如し

▲出迎と宿舍割 九日午前六時六分觀光團二百五十名の一行が入京する時は府民代表者十餘名は龍山驛まで之れを出迎へ同列車の着驛する時は十發の煙花を發揚し日鮮の兩樂隊及び日鮮有志者の出迎等ある筈にして觀光團一行は腕車を連ねて各指定の宿舍に投ずる由なるが其宿舍割は左の如し

△巴城館（三十人）△天眞樓（三十人）△浦尾旅館（二十人）△京城ホテル（二十人）△不知火旅館（二十人）△山本旅館（二十人）△旭館（二十人）△三日月旅館（二十五人）△佐藤旅館（二十五人）△原金旅館（四十人）

▲九日の同一行 午前七時腕車にて各旅館を出發し和城臺なる本願寺前に集合し其れ〲案內者の指導により本願寺、總督府、紀念碑、和城臺公園、瀧陽公園等を巡覽し正午十二時には萬千閣にて午餐を喫する筈なり

▲大懇親會臨場 午後三時より景福宮に於ける大懇親會に臨場する筈にして來賓と等しく光化門より入り慶會樓にて府民主客に挨拶を爲し後直ちに北園の會場に入り日鮮餘興を縱覽し模擬店其他の饗應を受け隨意解散を爲すべしと

▲十日の同一行 觀光團入京の第二日には附近各地に就いて隨意觀覽を爲す由なるが其案內として朝鮮鐵道局より十人、京城民團役所より五人、京城日報社より五人を派する筈にして其觀覽地は左の如し

一、農商工部園藝模範場（纛島）二、東拓經營の農場（同上）三、淸凉里閔妃の陵（東大門外）四、獨立門（義州街道）五、奬忠壇（南山麓）六、關帝廟（南大門外）七、石坡亭（北門外）八、東亞煙草株式會社製造所（黃橋通り）九、龍山新市街

▲十一日の觀光團一行 第三日觀光團の一行は午前八時パコダ公園に集合し昌德宮仁政殿其他の宮殿を拜觀し後秘園博物館、動植物館を觀覽し正午李王殿下より茶菓及び午餐の御饗應を受け隨意退散の豫定なりと

●光化門郵便局統計

	口數	金額
受之部		
爲替	一七五三	六五四一九、五七〇
外國爲替	二	九〇、九一〇
取立金	八二	九三九、四二〇
貯金	二三四	七二三〇、一九五
振替貯金	一五一	一三一九、六八五
歳入	三三九	八九七一、九四一
國庫金	三三六	五〇八、九五〇
拂之部		
爲替	二〇〇七	四七一五六、三九〇
外國爲替	二	一〇八、五二〇
取立金	八八五	六四九九、五八〇
貯金	四四九	六三二七、七三三
振替貯金	一	二七〇
歳出	八六	二四八五、八五一
年金恩給	一	三、二五〇

●龍山郵便局の統計

九月中龍山局の取扱金額左の如し

	口數	金額
受之部		
爲替	一七〇三	四三六八二、三八
外國爲替	一	四、三〇
取立金	三七	四〇四、七六
貯金	三四五九	一五九七六、〇八五
振替貯金	一三九	九一四、二五五
歳入	二九九	三三二八、五三八
國庫金	三三六	一三二、一二
拂之部		
爲替	一〇二〇	二四一七、一九五
取立金	一七	六五、九九
貯金	六二〇	八六八六、二五
振替貯金	一四	六九三、二六
歳出	二五	三五七九、九九

●中樞院廳舍の決定

新官制と共に設置せられたる中樞院の廳舍は總督府狹隘なる爲め本廳に置く能はず當分裏手別屋の衛生課跡に於いて事務を執る事に決定したり

合併後の產業振興策（十四）

エー、ジー、スミス

產業振興の要件として誰しも先づ第一に提唱するは、道路、鐵道、港灣の修築と勸業的銀行の設立である。此は五六年前統監府創設の頃、盛に唱へられ一時は猫も杓子も之に和して、今や既に黴の生へてるほど古臭ひ議論であるが、ソモ交通と金融の機關は產業上の大動脈と稱すべきものなれば、之が擴張と整備を期することは、目下焦眉の急務と云ふを得可く、從て其必要の程度に於て、今と昔と少しも異らぬと云つて宜しい。

朝鮮の產業と云へは、農業、鑛業、水產業の三つである。工業は農業の副業として見るべきものなきにあらざるも獨立の工業としては都會に於ける電氣瓦斯位に止り、未だ一般に奬勵を要する程の域に達して居ない。ソコで農、鑛、水の三業を開發するに就て、前述の交通及金融機關の改善は極て緊要であるが、尚其他の種々の方面からも調査研究を遂ぐるの必要がある。一方が完全に出來ても他方に故障があれば有終の効果を收むることが六ケ敷からである。

然し、今茲に各種の方面に於ける調査研究を一々詳述することは、時間と紙面の到底許さぬところと思ふに依り、便宜簡潔を主として、單に綱領と要目のみを擧げて見やう。

（甲）積極方案

產業の發達を促進するもの

（一）交通運輸の機關を整備すること
（二）水陸連絡の設備を完整すること
（三）不動產銀行の設立
（四）土地の整理及地券の發行
（五）疏水及水源の涵養
（六）內地より農民及漁民の移植
（七）產業獎勵の爲め巡廻講習の制を設くること
（八）朝鮮人を鞭撻して勤儉力行を督勵すること
（九）朝鮮の事情を周知せしむる紹介機關を設くること

（乙）消極方案

產業の發達を阻害する弊因を除却するもの

（一）輸出稅及移出稅を廢止すること
（二）內地朝鮮間の經濟上の障壁を撤去すること
（三）產業に關する行政上の繁文縟禮を矯正すること
（四）東拓其他特許會社の利權壟斷を許さゞること
（五）東拓、農銀、手形組合、金融組合等の如き營利會社若くは營利團体の特別保護及干涉を罷むること
（六）鑛業を民營と爲すこと
（七）製鹽、印刷、煉瓦其他營利事業の官營を廢すること

大要こんなものである。此中にて自ら緩急先後の別はあるが、大体に於て差向き（甲）よりも寧ろ（乙）に力を用ひたいのである。何せなれば、先づ（乙）の弊因を除かざれば（甲）に費やした努力の效果が皆無若くは僅少に歸するからである。而して（乙）の中でも（一）より（四）に至る四箇條が最も急要なりと信ずる。

如上は日本人の立場から立てた意見であつて、外人としての余自身の希望は今一歩進んで居るが、其は天機漏すべからずで、暫く御預りと致さう。

恩賜金と注意書

朝鮮總督府は併合成立と同時に年末賞與の時期を繰上げ今回各官吏に對し夫れ〲賞與金の下附ありたるは既報の如くなるが其額は內地人より朝鮮人に厚くして大臣は六萬圓宛親衞府長官は五萬圓親任官は一萬圓勅任一等二等は四千圓乃至五千圓奏任は千圓判任は三百圓の割合を以て給付せられたり而して該賞與金は恩賜公債を以て交付せらるべく寺內總督は辭令書と共に左の注意書を與へたり

一、恩賜金下附に關する本辭令書は其官多年勤勞尠からざるに就き特に思召を以て交付せらるる故に其趣意を遵奉し本辭令書は本人自から鄭重に保存し紛失又は汚損なき樣注意すべきのみならず決して他に讓與又は典賣すべからず

一、本辭令の金額は四十三年勅令第三二七號を以て發行する恩賜公債を以て交付せらるべし但し證券製造の時日を要するに依り向後二箇月間を要すべきに付き右心得べし

一、時期は追て公示ありたる時は本人自から辭令書を持參し公債證券を受領すべし

東拓移民の特典

內地人の朝鮮移住に就ては專ら東拓會社をして之に當らしむ可く既に同社の移住民規則も認可せられ目下各府縣長官の手を經て其が勸誘中なりと云ふが聞く處によれば該移住民に對しては一戶に就き田畑二町步以內と現金二百圓以內を貸付け二十五箇年賦にて償還せしむる特典あり耕作物は主もに米麥にして移住すべき土地は黃海道沙里院、忠淸南道江景、全羅南道榮山浦なるが南部は棉作に適し北部は甘藷に適し現に試作中なれば追つては此二作を主耕農產物たらしむべき方針なりと云ふ

咸鏡北道の石炭（度支部司稅局の調査）

咸鏡北道に於ける石炭は兩三年以前より採掘せられ其產額未だ平壤產に比すべきに非ざるも漸次需要を喚起し其經營宜しきを得ば以て將來北部朝鮮の一產物たらしむるを得べし今其概況を左に揭載すべし

（甲）羅南炭坑

▲採掘の模樣 本坑は明治四十年より採掘せられ礦區廣大なりしと雖も未だ大規模の採掘をなすに至らず從業人員は別に定員なく需要最も盛なる冬季は四五十名の朝鮮人を使役するも夏季は殆ど休業の有樣なり本坑採掘炭の用途は「ストーブ」湯屋及煉瓦製造業等なり

▲現今の產出高 一箇年約二千噸

▲品質 脆弱にして日光に晒す時は小片に裂け且つ光澤に乏し

▲價格 元價一噸に付三圓五十錢淸津迄運賃二圓四十錢市價六圓五十錢

▲消費地 羅南、淸津

（乙）鏡城炭坑

▲採掘の模樣 本坑は羅南炭坑と均しく明治四十年より開始せられ羅南炭坑に比し其規模稍整備す日本人坑夫五名朝鮮人坑夫二十名、雜役夫七八十名を使役し十二臺の「トロック」を以て坑內運搬に從事せり其礦區二十萬坪以上に亘り目下採掘しつゝある坑脈の高十二三尺幅九尺にして內部七八箇所に分岐

▲現在の產出高 一箇年約三千五百噸

▲品質 羅南炭に比すれば頗る良好にして光澤あり外見日本炭に類似す

▲價格 元價一噸に付四圓五十錢淸津迄運賃四圓十五錢市價（淸津）九圓五十錢

▲消費地 羅南、淸津

●日韓瓦斯馬山支店

日韓瓦斯電氣會社の馬山支店は資本金十萬圓にして近々敷地々均し工事に着手する由なるが同地は運賃の關係にて石炭安價なるを以て電燈電力共料金約一割方當地に比し低廉に供給し得べし

●江原道品評會開催

江原道春川に於て來る二十日より三週間第一回物產品評會を開催し農產物工藝品を蒐集し地方民啓發に資する由

●龍山發電所竣工期

建築中なる日韓瓦斯電氣會社の龍山發電所は來十一月初旬竣工の豫定なる由

●式部官等の一行

滯京中の蜂須賀式部官は七日授爵式終了次第直に歸東の途に上るべく宗秩寮主事小原男は一日後れて八日出發歸東の筈也

●官舍の電話電燈

諸官衙の官舍に備付ある電話及電燈の料金は從來官給たりしが今次の改正に伴ひて各部長官の外支給せざることゝなれり

●戶叶薰雄氏出發

前朝鮮日報社長戶叶薰雄氏は六日朝出發歸東したるが見送人は市原韓銀總裁、井上東拓理事古城民長、和田民會議長、兒玉總督府秘書官、新聞記者通信員等數十名也き

●草場書記官轉居

京城控訴院檢事より今般總督府書記官に榮轉せる草場林五郎氏は是迄東大門官舍に住居中の所今般轉任と同時に西小門通り司法部官舍元安住氏跡に引越したりと

公人私人

●藤田大尉の轉補 軍司令部附步兵大尉藤田鴻輔三日附總督副官に補さる

▲永樂連吾（時事新報社員） 五日平壤より入京し京城ホテルへ投宿せり

▲近藤定元（宮內省屬） 五日入京天眞樓

▲尾高次郎（韓國興業會社取締役） 五日黃州より入京京城ホテルへ投宿

▲市川雕（同社員） 同上

▲川尻東馬（萬朝報記者） 五日新義州より入京し不知火旅館へ投宿す

▲淸水順次郎（皮革會社技師長）五日發

▲京城手形交換高▼

十月六日 金高 六六、一四八、〇六 枚數 四八五

▲大阪期米電報▼

▲後場（五日） 十月限止十五圓廿六錢▲十一月限止十五圓九錢▲十二月限止不明

▲前場（六日） 十月限寄十五圓十六錢止二十錢▲十一月限寄十五圓止十一錢▲十二月限寄十五圓四錢止十七錢

▲後場（六日） 十月限寄十五圓三十錢▲十一月限寄十七錢▲十二月限寄十九錢

▲仁川米豆取引所▼

▲後場（五日） 十一月一節八圓七十五錢八錢▲二節七十七錢六錢三節▲出來高一方五百石▲十二月一節八圓七十七錢八錢九錢八錢▲二節七十七錢六錢七錢六錢五錢▲三節七十五錢四錢三錢二錢一錢二錢一錢▲出來高一方四千四百五十石

▲前場（六日） 十一月一節八圓六十三錢四錢▲二節六十五錢▲三節六十八錢七十錢▲出來高一方千石▲十二月一節六十五錢三錢五錢四錢九錢四錢五錢▲二節六十五錢四錢▲六十五錢六錢七錢八錢九錢七十錢六十九錢▲出來高一方三千九百石

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 五日の分如左
乘車客 八九一 下車客 七八二
乘車賃金 二〇五五、七三

▲南大門荷物發着高 五日の分如左
發送 一二四噸 到着 一六六噸
發送賃金 八九九、五九

▲龍山驛の乘降客 五日の分如左
乘車客 二〇七 下車客 二四〇
乘車賃金 二四四、六二

▲龍山驛荷物發着高 五日の分如左
發送 二六噸 到着 一三噸
發送賃金 一三六、三四

▲治外法權▼

過日寺內總督が部下に向つて爲したる訓示演說中に曰く日韓併合は一の手段にして終局の目的に非ず、之に因り複雜なる舊制を改めて、統一の組織となし、以て治績を擧げんとする叡慮に出たるに外ならずと、叡慮斯くの如し吾人臣民は良く叡慮を解して働くべしだ▲而るに何事ぞ世には未だに舊思想に囚はれ、併合を以て終局の目的を遂したる如く心得、モー安心だなどゝ浮き調子に成つて居る連中が幾らもある、コンナ連中には世界の大勢や帝國の使命などは判らぬ▲浮田博士曰く併合したからとて何も朝鮮人に特に同情を表するには及ばぬ同情を表するよりは同國民として彼等を尊敬せよと、成程之は一理窟だ▲本紙嚢に日本臣民と日本人との區別を說き朝鮮人は併合に因つて帝國の臣民とはなつたが、まだ日本人とはなつて居らぬと論斷した、此論斷は朝鮮人を疎外するに非ず、新附の民をして日本人たらんことを勉めさせる爲だ▲而るに御用紙京日は朝鮮統治要義第二中朝鮮人を日本人の一部なりと稱して居る而かも斯く稱して居ながら有耶無耶の間に日本人と朝鮮人との區別を立てねばならぬ樣に言ふて居る▲思ふに新聞紙の論議などは第二だ、まづ第一は我總督府は朝鮮人を日本臣民の一部と見做すと同時に日本人の一部分と見做して良いかドウカ、爲政者は半島統治の必要上ドウしても此問題を明瞭にキメて置かねばならぬ▲東本願寺は朝鮮人同化に貢獻するが爲とかで近々前法主大谷を寄越し、大衆傳道をヤルとの事だ、本願寺の傳道、斯は半島に取つて最もの禁物だ、墮落坊主共に大衆傳道をヤラレ半島人が今以上に墮落したらソレコソ大變ヂヤないか▲新設煙草會社の株で一儲けせんと企てる人達はヨク政府當局の意向を確めた上で去就を決すべしだ、ウカウカと東京虛業屋の口車に乘つて騷ぐと損と恥とを一シヨに受けますよ。

仁川の歡迎準備

鐵道院主催大觀光團一行は十月十四日午後二時二十分仁川驛着同十五日午前六時〇五分仁川驛發車の筈なるが同地歡迎準備左の如し

▲送迎 民長助役民會議長議員商業會議所會頭副會頭議員書記長は主として送迎のこと▲觀光團長宿所には民長議長會頭訪問のこと

▲市內案內 民團吏員四名會議所員二名驛員二名案內者は赤布の腕章を付す

▲遊覽順路 仁川驛より稅關前に出て府廳郵便局前を經日本居留地境より上に秋田邸前より各國公園に入り裏門より出で穴門を下り元各國警察署前より本町を經宮町に出て[illegible]公園に至る

▲接待 公園に於て茶菓及麥酒等を供す案內者同行せさる團員は午後三時公園に參集のこと觀光團員には仁川景色四枚綴繪葉書及統計書一通つゝ配附する爲め前以て驛長に送付の事

▲[illegible] ▲八景園三十名▲稻田三十名▲水津十五名▲原金二十名▲旭屋四十名▲筑前屋十名▲白石十名▲一富士十五名▲朝日三十名▲大阪三十五名▲鯱十五名

[illegible]

全羅南道濟州郡月打里及び松浦に於ける漁民代表者元遠建の發許を取消し同地一般漁民に免許せられたるを以て元の免許狀を引上げ漁業者全般に對する發許狀を下附する[illegible]漁業者の重なる者數名を集め事の本末を論し今後協同一致圓滿に斯業に奬勵すべきを說示したるに何れも當局の圓滿なる處置に歡喜したり然るに一方元[illegible]られ一般に下附するの不當を主張し種々なる言動を弄し目下盛んに該免許回復に狂奔しつゝあるを以て其の筋にても嚴重に警戒中なりと云ふ

▲仁川港の出入船舶▼

▲[illegible]丸 同鎭南浦より入港
▲秀吉丸 同大阪より入港
▲薩摩丸 同午後四時大阪へ向出港

仁川の歡迎準備

觀覽院十餘大觀光團一行は十月十四日午後二時二十分仁川驛着同十五日午前六時〇五分仁川驛發車し…なる筈同地歡迎準備は左の如し

▲送迎● 民長助役民會議長議員商業會議所會頭副會頭議員書記長は主として送迎のこと▲觀光團長宿所には民長議長會頭訪問のこと

▲市內案內● 民團吏員四名會議所員二名驛員二名案內者は赤布の腕章を付す

▲遊覽順路 仁川驛より税關前に出て府廳前郵便局前を經日本居留地境より上に秋田邸前より各國公園に入り裏門より出て穴門を下り元各國警察署前より本町を經宮町に…に至る

▲接待● 公園…に於て茶菓及麥酒等を供す案內…行せさる諸員は午後三時公園に參集のこと觀光團員には仁川景色四枚續繪葉書及統計書一通つゝ配附する爲め前以て驛長に送付の事

▲宿泊所 左の如く割當つる事 ▲八景園三十名▲稻田三十名▲水津十五名▲原金二十名▲旭屋四十名▲筑前屋十名▲白石十名▲一富士十五名▲朝日三十名▲八阪三十五名▲鮮…十五名

●漁場… 全羅南道濟州郡月打里及び松浦に於ける漁民代表者元達建の免許を取消し同地一般漁民に免許せられたるを以て元の免許狀を引上げ漁業者全般に對する…を諭し今後協同一致圓滿に斯業に奬勵すべきを設示したるに何れも…局の圓滿なる趣致に敬服したり然るに一方元漁業者の重なる者數名を集め事の本末を…られ一般に下附するの不當を主張し種々なる言動を弄し目下絡れに該免許同復に狂奔しつゝあるを以て其の筋にても嚴重に警戒中なりと云ふ

▲仁川港の出入船舶 ▲…丸 同鎭南浦より入港 ▲秀吉丸 同大阪より入港 ▲薩摩丸 同午後四時大阪へ向出港



小言のさゝやく

左は倉橋法學士が帝國大學法科大講堂に於て開かれた心理學通俗講話會に於て講じたる大要であるが子を持る人の參考として抄錄した（いの字）

子供さんを叱る**動機**に就て**愼**まねばならぬ――概括めて云へば大人が子供に對する時にたしなまねばならぬ事は種々ある內に小言、即ち叱る動機に就て愼まねばならぬ種類を擧ぐると「怒り叱り」「日頃の怨みじかり」「機嫌かへじかり」「憎みじかり」「江戸の怨みを長崎でじかり」などは見當違ひで…

叔母さんに濫用せらるゝ「れせつかいじかり」などは小供の本能を無視したしかりで其の個性を沒却する嫌がある、中途な敎育を受けた父さん母さん方の中には**形式的の敎育法**を振り出した「條文しかり」の方の間違つたので…高壓的なのではもあるが之れは我慢…最も苦痛なのは「だらく〜しかり」で…て居る間にツイ寢むか出たりするとられながら欠伸をするが居睡をするものが羅だ座つて居る計り…皮肉なのでは「異ましく〜づし」で此れは**繼母、乳母、子守**なる奴の**慣用**…次は「惡戯へ叱らぬ」ではなくとも小言か**惡事を暗示する場合**…豆を弄んで居るときに穴に入れては不可ないと…で夫れが爲め今迄其…つた奴が**豆を鼻**に入れる事を知り從つて何様ものかツイ入れて見たくなつたり、又一寸眼の邊へ手を入れてるのを見て…

はチンチンを弄つては不可ないよと云ふと小供はチン〜を弄ると云ふ事を敎へられることになる、怪しからぬ叱り方は「無實しかり」「邪推しかり」「人前しかり」等で、遣り切れないのは「ひまつぶしじかり」で此れは強ち小供に限つた譯でなく上長が目下の者に向つて行る場合がある、迷惑は此の上もない更に甚だしいのは「口癖しかり」である、次に小供の不意を打つて大に其の感情を害するのが「思ひ出しじかり」である、子供を叱ると云ふことは時と場合を見ることが必要だ、即ち**子供自身**が叱られるのは無理はないと云はれて見れば**成程**惡い事をしたと感せしむるを要する、と云ふのは吾々が爲れは甚だ無禮不謹愼なことも子供の夫れには其の意味を含まぬ事が多いからである、要するに大人は常に小供を尊敬し信用すること、形を叱ずに內を叱る、小言は**正當公平**で**簡單明瞭**たるべきこと、小言其者に**權威**の終を完ふすること、**威**あらしむる如心掛くべしである。

高等貸馬車の開業

▽戸田次郎氏の計畫 從來中署典洞に於て馬車製造業を經營せる帝國ホテル馬車部經營者たる戸田次郎氏は時世の要求に鑑み當地に於ける貴婦人紳士の便宜を圖らんが爲め近々高等貸馬車業を開始し停車場、宴會訪問等の送り迎への需めに應ずべく既に諸般の準備を終りたりと云ふ

龍山の臨時清潔法執行

▽七日より左の日割にて 龍山署に於ては七日より臨時清潔法を行ふ日割左の如し(雨天順延) 七日元町四丁目、祝町、末廣町、京町、吾妻町、八日榮町、川端町、若松町、老松町、十日元町三丁目、大島町、旭橋通、神明町、凱旋町、梅町、十一日桃山町、綠町、錦町、十二日元町一、二丁目泉町、清水町、白濱町、舊幸町、十三日漢江分署管內、十四日桃花洞外井契船村里管內、十五日麻浦孔德里管內、十六日東幕契派里管內、十七日黑岩里西湖下水登里管內、十八日揚花浦管內

銃兇器を私藏す

京城西部東幕里三十一統八戸無職閔泳達（六〇）が銃器を私匿し居るよしを聞込み第二憲兵分隊に於ては去五日憲兵を派し事實の取調を爲したるに同人交河居住の際則ち四十一年十二月中暴徒來襲し所藏の洋銃一、支那銃二、拳銃一、短刀一を掠奪し去りたれば只今は所持せずと言ひ張れど家內を搜索したるところ尙は洋刀二、鐵砲及び火藥を發見したれば取締規則に由り直に之を押收せり

入獄して舊惡露顯

大分縣人當時永登浦監獄在監人間利子消（三四）が本町三丁目明治座に奉公中店の金を横領して清華亭井門樓等にて費消したる件は南部署長野刑事の手に檢擧せられ京城地方裁判所に於て懲役四箇月に處せられ目下服役中なるが彼は渡鮮以前明治四十二年十二月より本年四月に至る迄大阪電燈株式會社の雇員として同會計課に勤務し電燈料の集金に從事中集金したる金三百六十九圓五十六錢を横領費消し逃走せし事發覺し昨五日京城地方裁判所に於て更に懲役二箇月に處せらる

忠南の赤痢流行

忠南瑞山郡大山面に昨五日赤痢患者七十五名發生せりと

淸人鮮人を苛む

帽子山七道溝居住淸人荊德均は謂原郡下面社長里居住朝鮮人文昌善外九名に對し三ケ月前五百七十六圓にて筏三組半分の材木を上流にて伐採し安東縣迄流下の請負をなさしめたり然るに文昌善外九名は請負契約の如く三組半の筏を先月中旬安東縣に流下し來りしに荊德均は木材の價格が目下下落の思惑外れしたりと稱し其賃銀の半額を仕拂ひたるのみにて約束を履行せざるにぞ文外九名の朝鮮人は荊に對する説諭方安東縣領事館警察署へ泣く〜願ひ出でたるにより其筋にては審理の結果近く淸國官憲へ交涉を開始すべしと

年少朝鮮の窃盜

蓬萊町一丁目岸田梅吉方より一昨五日午前十一時頃迄に現金二十五圓を何者にか窃取せられたる旨南部署に屆出たるにぞ同署岸刑事は時を移さず現場に臨檢したるが豫て擧動不審と注目せる南大門外巡羅洞裵壽乙（十四）に付取調しに右犯人なる事判明し現金は實母に預け居る事同日午後十時頃に發覺したるより被害者に假下渡の準備中なるが現金の羅難にして斯く速に發見さるゝは稀なり之れ岸刑事の手腕に依るが爲めなりと被害者は喜び居れり

運の好い娘さん

五日午後二時頃明治町一丁目ブリキ商安達仙太郎の妹みさを（一六）が乳母車に子供を乘せ集金に廻り明治町一丁目六十四番戸居津乙次郎（三二）宅前にて集金したる金七十四圓八十八錢五厘入りの鞄を乳母車の片隅に入れたるまゝ便所に行きたる隙に乘じ慶尙北道義城郡北部面鐵波十…

一統六戸馬鎬榮なる者之を窃取逃走せんとするを唐津及糸山三二郎（二四）の兩人にて取押へ南部署に引渡したり

井戸の中へ石油

五日午後二時三十分龍山憲兵分隊へ吉田喜職と云ふもの出頭し昨夜鐵道官舍第八十五號の角にある構內居住商人の飲料水として使用せる井戸に石油を投入せしものある旨屆出たるに付宮崎曹長上等兵一名を從へ出張實況を檢分したり何者の惡戯やら時節柄色々の取沙汰あり

今日此頃の新町

新町遊廓は久しき不景氣にて每日遊客の費消金は二百圓內外にて樓主等は青息吐息の体なりしが此頃少々景氣付き每日四百圓以上に昇り五日の如きは五百圓に昇りたりと此の調子にて行けば何うやら飯にはなる相だが

尻三個笞百五十

南部苧洞一統二戸金章元（三十八）同所金仲五（三十六）同所朴元三（三十七）の三名は三日午後十一時五十分頃金章元方に於て骨牌を以て金錢を賭し博奕中を南部署に檢擧せられ笞五十宛に處せらる

仁川雜事

●淸潔 仁川民團にては七日より十四日迄市中淸潔方法を執行する由目下各地虎疫流行の折柄各自に於て充分注意して淸潔にせられたしとなり

●告發 京町二丁目飲食店花月樓事崎代巳之吉は五日午後九時頃抱酌婦北內すわと云ふ目下子宮內膜炎にて仁川病院にて治療中の者をして客席に侍せしめ居たるを以て告發せらる

●同上 龍岡町一丁目飲食店中村金太郎は本年九月頃原籍不詳の榎木はつ（五十）を雇入營業に從事せしめ居るより再度説諭せられたるも今に屆出でを爲さゞるより告發せらる

●迷兒 新町二丁目に四歲位の女兒が迷ひ居るを同町三丁目島田爲市が認め屆出たるを以て取調べたるに右は本町二丁目大和組進藤つたの二女と判明し説諭の上引渡したり

●拾得 新町二丁目北川春太郎長男定市（一〇）は五日午後二時頃同町道路に於て一圓紙幣一枚を拾得屆出

●敷島 遊客は四十四人にして費消金百十九圓八十三錢なり

目ごい耳（七日の分）

▲壽座 東操一座改良講談番組如左 西郷二度の旗揚、義士銘々傳、滿洲血染の地圖（東操）

▲浪花館 如雲一座は大喝采の內に五日限り打揚げたるが代りは大阪千歲活動寫眞にして重なる映畫左の如し 關東大洪水慘狀、舊劇安達原三段目

▲歌舞伎座 曾我の家一座其他の合同劇狂言は「金色夜叉」「妻の魂」「萩袖祭文の場淨瑠璃入、伊勢大廟宇治橋渡橋式の盛典、二見浦日の出光景、此他餘興數十種 二十錢均一

▲露國大曲馬 明治町東拓敷地假小屋に於ける露國人「パローフスキー」一座の大曲馬每夜七時より開場

●日宗婦人會發會 來る十三日午後二時より旭町三丁目護國寺に於て日蓮宗徒の發起に成りし日宗婦人會發會式を擧行する由なるが同會は將來內地村雲婦人會と氣脈を通じ相呼應して宗徒の信仰を增進し婦德を發揮し漸次朝鮮婦人をも感化誘導して日鮮婦人の融和を計らむとする主旨にして每月一回集會をなし法話講演をなす由尙發會式當日は餘興として筑前琵琶及バイオリンの演奏ある筈

値下社告

本京城新報儀去四十年十一月創設以來幾度か厄難に罹り候も幸にして無事茲に滿三ケ年を經過し以て今日に至り候ては偏に江湖愛讀者諸君御同情の結果と深謝の至りに不堪候而るに近來先輩の同業者にして廢刊する者續出致候に就いては此際本紙の責任を全ふせんが爲め弘く擴張の意味を以て本紙の値下げを斷行し從來一箇月分三十五錢なりしを左の通りに改訂仕候

京城新報 一ケ月分 金三十錢

但し支局賣捌所等より配達の分も同樣の事

右の通り勉強仕候に付ては此際遠近に拘はらず續々購讀方御申込相成度候

十月一日 **京城新報營業部**

露國曲馬の好況

明治町東洋拓殖會社空地に於て興行しつゝある露國人パロースキー一行の大曲馬は非常の大人氣にて每日午後七時三十分開始時刻迄に二、三等席は賣切れ八時頃には場內立錐の餘地もなく昨夜の如きは通信管理局職員家族八十餘名の團体見物其他の大部分も豫約の見物者を以て充たされ殊に在留外人なども一週間場所を買切り每夜詰め掛くる等實に大相撲以來近來類のなき大盛況なり

▲平民文壇▼

▲去る二日の高女及び第二小學聯合運動會場で古嬢さんは或る人を捉へて盛んに山口征伐が必要だなぞと話して居た小學敎員の山口縣閥の事だらうが自分の大分閥は棚に上げて加かも運動會の様な場所で還般話しは愼むべきことだと思ふ（實問子）▲度支部庶務課に勤めなさる○○さん此の頃或る方面に頻りに通ひの如だが愼まぬとれ役所の方の都合が惡くなりますよ僕は親友として大に忠告する（忠告生）▲朝鮮に居る親友程頼みにならぬはない此の親切があるなら直接忠告したら良いではないか新聞に投書しての御親切は本人の迷惑のみか本欄記者も迷惑だ詮ずる所中傷と認めるから姓を○○にした已來斯くの如き投書は御免蒙る（係）▲去る一日紀念端書を求めんと郵便局に赴きしに左まで遲からざるに既に賣り切れと云ふウンと癪に觸つた吾は心機を轉換して或る範圍の下に節儉貯蓄を思ひ立つた小兒臭いと笑はゞ笑へ吾は是を以て端書以上の好紀念物とする積り而して千載の偉業たる併合の其の紀念を中途廢絕に終らしめぬ決心を樹てた（への字）●●●（はの字）▲高等演藝館の內部の紊亂こそ面白けれ館員は總て無責任で誰れ一人眞面目に働いて居る者がない聞けば某々重役が何やら肥すに忙しいからである相な（消息通）▲敢て天下の問題に非ずだ（小僧）▲某役所及び某警察署囑托獸醫が屠牛營業者を恐喝して小使錢を強請したとか云ふ投書は沒とす（係）▲貴紙にて筆誅せられたる醜漢平渡は東京新橋停車場前西洋旅館に居る當地に於ける被害者一同連名して冥加金取戾し説諭方を所轄署に願出そうではないか（其の一人）▲貴社が花柳界の革命記事中に園遊會なぞに藝妓を傭ふ場合には正當に線香代を支拂ふべしと唱導せられたるに此の度の日鮮人大懇親會準備委員方は直ちに此の提議を入れて充分なる報酬を出さるゝ事になつた相だ標度潤さこと海の如き委員方の男振りは一段と美事である（への字）

今日の運勢

十月七日舊九月四日一白 赤口乙巳成△一白●旅行新事見合せの事●盜難水損注意の事△二黑●新事見合せの事衝突爭論の端醸成し易し△三碧●示談仲裁調停解散算旅行に吉婚談起業開店相談謀議に忌む△四綠●婚談入學門起業開店披露に吉不意の出費散財多き日なり△五黃●新事見合せの事何盜害紛爭防ぐべし△六白●賣買取引貸借進んで吉子孫使用人の事に損害煩累あり△七赤●收利の日なり親族の事煩鎖あり旅行探險行商婚談に尤も好良△八白●業務の塞難意思の疎隔を來すことあり盜害紛失注意の事△九紫●勞して効なき日新事目論見設計婚談尤も無効農林業には吉日

●天氣豫報（自六日午後六時至七日午後六時）

南東風晴後曇

五日（華氏）最高溫度 七三、八 最低溫度 四七、三

仁丹主効

●痰咳溜飲
●腹胸痛み
●氣の鬱ぎ
●頭痛目眩
●舟車暈ひ
●悪酔宿酔
●むかつき
●吐き下し
●寝冷水傷
●食慾不進
●口熱口臭
●惡疫豫防

利益買方
仁丹の五十錢包は十錢包の七倍分あるの上に優美なる懷中容器又は英國製家庭容器一個添付

